

一 般 (個 人) 質 問 通 告 一 覧 表

令和 2 年 第 4 回 笠 岡 市 議 会 定 例 会

6 月 1 6 日 ・ 1 7 日 (2 日 間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 大 山 盛 久	1 有 害 鳥 獣 駆 除 対 策 について	<p>野生鳥獣による農林水産被害金額は、岡山県全体で3億円程度と依然として高い水準となっています。その被害地域は年々広域化しており、農業者の生産意欲の減退や耕作放棄地の増加等が問題となっています。</p> <p>鳥獣被害の軽減を図るには、集落や田畑に鳥獣を近づけないことが一番で、すでに被害が発生していても、休耕地の草刈りなど集落周辺から隠れる場所をなくし、未収穫の農作物など野生動物を誘引する原因を取り除き、野生鳥獣を見つけたら追い払いを行うなど、野生鳥獣にとって集落はえさ場として魅力のない場所とすることが大切です。</p> <p>このような集落での被害防止への体制づくりを進めるとともに、集落ぐるみで計画的に電気柵等進入防止策施設の整備など防護対策を実施することが効果的と考えており、県では集落ぐるみによる取組みを支援しています。</p> <p>笠岡市でも陸地部を初め、島しょ部でもイノシシ被害が急増し、速やかに駆除を行う必要があります。そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 陸地部及び島しょ部においての、イノシシの生息地域の調査や駆除などは現在どのように進めているのか。また、猟友会との連携はできているのかをお尋ねします。</p> <p>(2) 今までモデル地区を指定して駆除してきたが、今年度はどの地区をするか計画はあるのか。また、実績はどうであったかをお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>

		<p>(3) 笠岡市の前年度の被害状況及び捕獲状況と、今年度の現在までの被害状況及び捕獲状況をお尋ねします。</p> <p>(4) 有害鳥獣防止対策事業補助金の補助額の変更は、検討を考えているかをお尋ねします。</p> <p>(5) 鳥獣被害対策実施隊の状況及び実績と笠岡市としての助成金制度への見直しはあるのかをお尋ねします。</p> <p>農業後継者不足により、農業就業者の7割を占める60歳以上の世代が高齢化によりリタイヤし、それに伴い耕作が行われなくなり、放置された農地が問題となっています。管理されなくなった農地が農業生産の減少だけでなく農地を放置することによって雑草が生えたり、害虫が発生したりする問題もあります。十分な管理が行われず周囲の迷惑になったり、景観の悪化や周囲の農地への悪影響になったりします。</p> <p>農業委員会に用途変更の手続きが行われる例は少なく、耕作放棄地の多くは農地の名目のまま原野化、森林化の道をたどります。</p> <p>(1) 前年度と比べて現在の耕作放棄地は増えているのか。また、荒廃農地の発生防止と解消、笠岡市としてはこの問題をどのように解決していくのかを尋ねる。</p> <p>(2) 現在の耕作放棄地には、何らかの対応はとっているかを尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p>
2 耕作放棄地について			
2 真鍋 陽子	1 特別職報酬等審議会について	<p>(1) 笠岡市特別職報酬等審議会とは何か。</p> <p>(2) 笠岡市特別職報酬等審議会において、特別職の報酬を決めるための基準は何か。</p> <p>(3) 笠岡市特別職報酬等審議会は誰が招集できるのか。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

	<p>2 2020年4月19日投開票笠岡市長選挙・市議会議員選挙について</p>	<p>(1) 市長選挙・市議会議員選挙ともに過去最低投票率を記録したことについての見解を問う。</p> <p>(2) 年代別の投票率の結果は。そこから分析できる傾向はあるか。</p> <p>(3) 投票率の向上に向けての今後の取組み、検討課題を尋ねる。</p> <p>(4) 学校教育における早期主権者教育の取組みを今後どのように考えているのか。</p>	<p>選挙管理委員会委員長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>教育長</p>
	<p>3 学校教育について</p>	<p>(1) これから熱中症が心配される季節となる。新型コロナウイルス感染拡大予防対策と熱中症対策を学校教育の中でともに行う上で気をつけている点を尋ねる。</p> <p>(2) 国はGIGAスクール構想を強く推進している。笠岡市教育委員会として、GIGAスクール構想における「個別最適化された学び」をいかに実現していくのか。</p> <p>(3) 1人1台タブレットが実現することにより、教室における個々の学びはどのように保障されるのか。</p> <p>(4) 市内支援学級に多層指導モデルMIM、ビジョンアセスメントWAVESを整備した意図は何か。</p> <p>(5) 市内における活用状況を問う。</p> <p>(6) 学習指導要領の小学校完全実施、中学校来年度完全実施など、国の教育改革が行われている。笠岡市における教育3改革に対する2期目の市長の意気込みをお聞かせください。</p> <p>(7) 新教育委員会制度における市長の政治的な中立性の確保について、市長の考えをお聞かせください。</p>	<p>教育長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>〃</p>

<p>3 仁科 文秀</p>	<p>1 市民病院経営の考え方について</p>	<p>5月に議会に対し「笠岡市新病院基本構想(原案)が提出され、令和7年の新病院開院に向け新たなスタートを切った。市民病院の経営について考え方を尋ねる。</p> <p>(1) 新病院の基本構想後の基本計画、基本設計以降の担当は健康福祉部病院建設推進室となっている。専門性や経験が必要な今後の計画づくり、市民病院との役割分担はどうなるのか尋ねる。</p> <p>(2) 建てかえ予定がある、病床の利用率が3年連続70%未満、地域における医療機能の見直しを検討する必要がある、の3点とも該当する公立病院は再編・ネットワーク化検討の必要があると総務省は発表していた。</p> <p>笠岡市民病院はすべて当てはまるが、再編・ネットワーク化は初めから検討しなかったのか尋ねる。</p> <p>(3) 収益の改善をするためには、入院・外来患者を増加させることが王道である。常勤医が増える見込みがない中でこの課題にどう取り組むのか。</p> <p>(4) 市民から信頼され、愛され、市民にとってなくてはならない病院であるためには、救急対応、島しょ部医療、災害拠点病院、かかりつけ医、訪問診療、訪問介護、みとりなど、不採算部門も含めた多岐に渡る役割を果たさなければならない。やればやるほど黒字化から遠ざかるのではないかと尋ねる。</p> <p>(5) 民間病院と差別化し、公立病院として市民に求められる特徴のある病院でありたい。例えば小児科外来は平成22年度の1,502人から平成30年には6,098人と4倍</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
----------------	-------------------------	--	--

		<p>以上の患者数を記録している。</p> <p>臨床心理士への期待も大きい。診療報酬加算への寄与は多くないかもしれないが、このような特徴ある市民病院づくりへの考えを尋ねる。</p> <p>(6) 現在の地方公営企業法全部適用での黒字化は極めて厳しい。黒字化を可能にする地方独立行政法人化について研究し、検討しているのか尋ねる。</p> <p>現代は「総障害者化する社会」とも言われ、きのうまで健常者と言われた人がきょうは障害者になることがある。いつ、だれが障害者になっても不思議ではない。</p> <p>障害がある人への差別はかつてのようなことはなく、次第になくなりつつあるように見えるが、まだまだ問題点も多い。以下お尋ねする。</p> <p>(1) 平成28年4月から施行された、いわゆる「障害者差別解消法」に関連して、笠岡市が行政として取り組んできたこととその成果について尋ねる。</p> <p>(2) 設置が望ましいとされる「障害者差別解消支援地域協議会」の設立とその活動実績、今後の活動計画について尋ねる。</p> <p>(3) 3障害のうち精神障害者だけ加入が認められていない「心身障害者医療費助成制度」について、笠岡市の考えと今後の取組みを尋ねる。</p> <p>(4) 全国の40歳から64歳までで61万人いると言われ、笠岡市内では224人いると推計されている「ひきこもり」の人の支援について、本市としての今後の実行計画を尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
4 山本 聡	1 地域活性化の観点から観光(業)について	(1) 現状の組織(市観光課・市観光連盟・他、各組織・団体)の役割と互いの連携の状況について尋ねる。	市長

		<p>また、瀬戸内DMO(広島県商工労働局から派生、元瀬戸内ブランド推進連合)のような戦略的マーケティング活動のできる組織を構築できないか尋ねる。</p> <p>(米・英・独・仏、4市場においてこのDMOが各国の旅行会社へ働きかけ(マーケティング),2019年1月にニューヨークタイムズに発表された‘今年行くべき世界の destinations’の第7位に瀬戸内海が選出された。)</p> <p>(2) 観光客の取り込み、関係人口の拡大策について、次の点について尋ねる。</p> <p>(ア) クアオルト(保養地×ウォーキング)の考え方を取り入れて、笠岡市が実施している健康ポイント事業とリンクさせ、特に笠岡諸島に整備されている遊歩道を有効活用できないか。</p> <p>(日本クアオルト協議会は自治体が運営する組織である。中国地方では大田市が会員となっている。現在会員ではないが、2016年に新見市が優秀賞を受賞した。)</p> <p>(イ) 瀬戸内ブランド推進連合(現・瀬戸内DMO)が瀬戸内海の道構想を発表した際に、笠岡諸島が瀬戸内ブランドを構成する要素としてリーフレットに掲載されていたが、その後、瀬戸内DMOと具体的に笠岡諸島のブランド化について話し合いがもたれたか。</p> <p>(ウ) JR西日本が始めた自転車を載せて尾道から宇野及び四国の琴平まで走る「ラ・マル・ド・ボア/木製旅行かばん」について、笠岡駅への停車の可能性はあるか。</p> <p>(現在、尾道岡山間は福山駅、倉敷駅のみ</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	--	---	-----------------------------

		<p>の停車になっている。)</p> <p>(エ) 自転車道の整備は可能か。 (笠岡～多度津間の自転車を載せた土日限定の船の便の開発など。)</p> <p>(オ) 定期的に訪れるきっかけの1つが趣味と食及びイベントなど具体的な策が練られているか。 (食事についていえば(観光庁令和元年の観光白書から抜粋), 欧米人を対象としたアンケート調査によると食べたい食事は, ①ラーメン, ②寿司, ③焼肉となっている。※笠岡ブランドに登録されているものが中心。)</p> <p>(3) 日本遺産認定をきっかけとした今後の地域振興策を尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
5 原田てつよ	1 笠岡市・里庄町相談支援センターと自立支援協議会について	<p>平成18年に、浅口市・井原市・里庄町・矢掛町と笠岡市の3市2町で井笠圏域障害者相談支援センターと井笠地域障害者自立支援協議会を備中県民局井笠地域事務所の一角を借り、立ち上げて13年間、障害のある人はもちろんのこと、御家族・事業所・関係者の皆さんに定着していました。</p> <p>そうした中で井笠地域の障害者に関わる環境も大きく変化し、関係する皆さんの声を基に、今後の各地域の活性化に向けた協議の結果、令和2年3月末で発展的解散。</p> <p>4月1日より各地域で相談支援センターを設置し、障害のある方や御家族が身近に相談できる体制を目指すとともに自立支援協議会も各地域で作り上げ、必要とする所は引き続き3市2町で連携をすることに決定しました。</p> <p>笠岡市と里庄町は、委託する相談支援事業所が同じということから、笠岡市・里庄町相談支援センターとして笠岡市健康福祉部地域福祉課</p>	

	<p>2 市民病院のオンライン面会について</p>	<p>内に相談支援センターを設置し、市内の2事業所に3障害の相談業務を委託。</p> <p>自立支援協議会の事務局は、笠岡市と里庄町の持ち回りという新たな体制での再出発となりました。</p> <p>以上を踏まえ、現状と今後の見通しについて3点お尋ねいたします。</p> <p>(1) 相談支援センターの場所について</p> <p>(2) 委託相談の体制について</p> <p>(3) 自立支援協議会について</p> <p>この度の新型コロナウイルスの院内感染防止対策の一環として、笠岡市民病院においても4月20日から当分の間、すべての方を対象に面会制限を行いました。</p> <p>施設入所の方や入院患者さんにとっては、家族や知り合いの面会や御見舞いは、大きな喜び楽しみの一つであり、長い間、親しい人と会えないという現実は本人の気力や身体の機能低下に通じると思います。</p> <p>6月6日から感染予防に気をつけ、条件をつけての面会が許可されてはいますが、今後のことも考えるとオンライン面会の方法も考える必要があるのではないかと感じています。</p> <p>現時点でのお考えをお尋ねいたします。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p>
<p>6 樋之津倫子</p>	<p>1 コロナ対策について</p>	<p>(1) 子育て世代への支援策として</p> <p>(ア) 定額給付金は、4月27日以降に生まれた子供を対象としていない。同じコロナ危機にさらされていることには変わりなく、保護者の不安を思う時、笠岡市独自に来年4月27日までの新生児に対しても定額給付金と同様の額を支給すべきと考えるがどうか。</p> <p>(イ) 昨年度3月5日からの学校休業が実施されてきた。国会において、日本共産党</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p>

		<p>は、コロナウイルス感染症対策の1つとして、要保護、準要保護に関わらず、学校休業中も学校給食費に係る就学援助については学校給食が実施されたとみなして支給すべきと訴えてきた。笠岡市も早期に実施すべきと思うがどうか。</p> <p>(2) コロナ禍の中で学校が再開されたが、子供たちの健全な発達を保障し、無理のない学びの中で、子供たちに負担のないよう、どう対応しているのか。また今後の学習計画についても問う。</p> <p>(3) 農業を初めとする各産業への影響にも大きいものがある。実態把握は進んでいるのか。指導や対策と合わせて尋ねる。</p> <p>(4) 市民へ無料配布のスーパー次亜水の取り扱い認識について問う。</p>	<p>教育長</p> <p>市 長</p> <p>〃</p>
	2 種子法改正案について	<p>日本の農業を守る上で、この度の種子法改正案には多くの問題点がある。市長の認識を問う。</p>	市 長
	3 イノシシ被害対策について	<p>イノシシ被害対策について北木島を取り上げ、その対策についての予算案が否決され、全市的な対策を講じていくことになって2年が過ぎた。その後の経過、実態について、また、今後の対策について問う。</p>	市 長